

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。
 本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	急性期脳卒中診断における単純CTのコンピュータ支援診断の有用性について		
2. 対象患者	2010年1月から2020年6月の間に脳卒中疑いとして当院で診療を受けた患者さんを対象とします。他院より診療情報提供を受けた場合の頭部単純CT検査や、当院で撮影した頭部単純CT検査の結果を用います。		
3. 対象となる期間	2010年 1月 1日 ~ 2020年 6月 30日		
4. 実施診療科等	放射線診断学講座		
5. 研究責任者	氏名	四ッ谷 千尋	所属 放射線診断学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	単純CTは多施設で撮影可能であり急性期脳卒中診断に欠かせない検査ですが、早期診断が困難な症例もあります。急性期脳卒中診断において、コンピュータ支援診断システムが有用であれば、読影労力の軽減や、診断の迅速性・正確性の向上により急性期治療適応患者の増加が期待できます。		
8. 研究の目的	頭部単純CTを脳卒中コンピュータ支援診断アプリケーションにより解析し、脳卒中が疑われる部位を自動検出します。頭部単純CTを読影する際、脳卒中診断においてコンピュータ支援診断が有用かどうか検討します。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	2010年1月から2020年6月の期間に脳卒中の疑いとして頭部単純CT撮影を行った症例について後ろ向きに調査します。他院で撮影され、診療情報提供を受けた画像も対象とします。頭部単純CT検査をコンピュータ支援診断アプリケーションにて解析します。解析により、脳卒中が疑われる部位が図示された「解析画像」が得られます。単純CT検査の画像と、「解析画像」を用いて読影を行い、脳卒中診断の感度・特異度を比較します。CTの撮影条件が「解析画像」に与える原因について検討を行い、臨床における有用性について検討を行います。収集した情報は、個人を特定できる情報を削除して匿名化します。個人と匿名化ID研究番号の対応表は施錠可能な保管庫等に厳重に管理します。研究内容は公表し、対象者となる患者さんから研究参加の拒否の申し出があった場合には、速やかに情報を削除します。研究結果は学会や学術誌で発表します。研究結果を公表した後、対象となる患者さんからの研究参加拒否の申し出には応じることができない場合があります。他院から紹介を受けた患者さんで、他院で撮影された単純CT検査の画像に関しても、個人情報の保護を遵守し、参加拒否の申し出を受け付けます。対象となる患者さんに追加で検査を行うことはありません。実際の診療において不利益を被ることはありません。		
10. 個人情報の保護	利用する情報からは、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。研究開始前に弘前大学医学部附属病院のホームページ上で公開し、研究対象者が参加することを拒否できるようにします。		
11. 利益相反に関する状況	キャノンメディカルシステムズ株式会社より、コンピュータ支援診断アプリケーション群の提供を受けます。		
12. 連絡先	弘前大学医学部放射線診断学講座 四ッ谷千尋		
	電話	0172-39-5103	FAX 0172-33-5267